

文書名	院内感染防止対策マニュアル E-8：個室隔離が必要な疾患・隔離期間一覧		
文書番号	感対-共手-E 標準予防策と感染経路別予防策の実際 8-001-170901	ページ	1 / 2

### 文書改訂履歴

版数	改訂頁	改訂内容	作成日 作成者	承認日 承認者
1	—	新規発行	2017. 9. 1	2017. 9. 1
			小美野 勝	長原 光

社会福祉法人 <sup>恩賜</sup> 財団 <sup>財団</sup> 済生会支部埼玉県済生会栗橋病院			
文書名	院内感染防止対策マニュアル E-8：個室隔離が必要な疾患・隔離期間一覧		
文書番号	感対-共手-E 標準予防策と感染経路別予防策の実際 8-001-170901	ページ	2 / 2

## E-8：個室隔離が必要な疾患・隔離期間 一覧

疾患	隔離期間
疥癬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陰性化するまで</li> <li>・皮膚科医師の判断（1～2 週間）</li> </ul>
肺結核	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCR が判明するまで（転院まで）</li> </ul>
クロストリジウム・ディフィシル腸炎 （CD トキシン）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の便性状に戻ってから 48 時間経過 （再燃の有無を確認するため）</li> </ul>
MRSA（感染を起こしている場合） ※ICU の場合は保菌でも個室隔離	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染兆候が消失するまで</li> </ul>
MDRP・VRE・CRE（保菌でも個室隔離）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陰性化を確認するまで</li> </ul>
腸管出血性大腸菌感染症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染兆候が消失するまで</li> </ul>
学校保健法の対象疾患 （インフルエンザ・ノロウイルスなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健法の基準に基づく （院内感染症発生届 参照）</li> </ul>
播種性帯状疱疹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚科医師の判断 （全ての発疹が痂皮化するまで）</li> </ul>
帯状疱疹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則個室隔離は不要であるが、以下の場合 個室隔離を検討する <ul style="list-style-type: none"> <li>①創部を閉鎖できない場合</li> <li>②同室者に免疫抑制状態の患者がいる場合</li> <li>③小児科病棟</li> </ul> </li> </ul>

その他、状況により医師と相談